

糸井亮介

いとい・りょうすけ

福山藩儒医、藩校誠之館教授

経歴

生:文政5年(1822年)

没:明治6年(1873年)4月19日、享年52歳、実相寺に葬る

—	—	山室汲古の養子となる
—	—	京都において吉益東洞の孫半松に学ぶ
—	—	大坂において篠崎小竹に儒学を学ぶ
—	—	江戸において古賀侗庵に儒学を学ぶ
嘉永2年(1849年)	27歳	山室家より糸井家へ復家
安政2年(1855年)	33歳	儒者見習
文久2年(1862年)	40歳	江戸在番
明治2年(1869年)10月	47歳	軍事局会計
?~ 明治3年(1870年)正月	?~ 47歳	誠之館文学教授

生い立ちと学業、業績

奥医師糸井東庵寿茂の第二子に生まれる。

幼名は義太・弥六郎、名は重肇・景強、字は子敏、通称は強・強耳・強二・亮介、号は舎車・蕭山・欽齋。

吉益東洞の孫半松に学び、のち篠崎小竹、古賀侗庵に儒学を学ぶ。

一時、山室汲古の養子になっていた。

嘉永2年(1850年)、兄の糸井黙齋(順庵)が没したために復家して家督を嗣ぐ。

医者にして儒者。

藩校誠之館文学教授となる。

安政2年(1855年)儒者見習。

文久2年(1862年)、江戸在番。

明治2年(1869年)10月、軍事局会計。

明治3年(1870年)正月、藩校誠之館文学教授御免。

大声にて手を叩きながら講義をしたという。

講義鮮やかかなりという。

頗る活発の人なりという。

著書に『鋸山遊記』、『晋王褒論』、『梅月荘記』、『鄙稿』、『愛山楼記』がある。

実相寺に墓がある。

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
05441	糸井亮介 著	『鋸山遊簿』	糸井亮介	嘉永4年
05442	糸井亮介 著	『偶然説送志田可遠序・題蠶織圖席上・梅月荘記』	糸井亮介	—
05443	桜井清 著	『糸井亮介関係資料綴(私家版)』	桜井清	平成21年

出典1:『糸井亮介関係資料綴(私家版)』、桜井清著、平成21年

出典2:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、41・71頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典3:『郷賢録』、11頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典4:『福山藩の文人誌』、112頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典5:『福山藩の教育と沿革史』、139頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

2009年8月10日追加●2009年8月11日更新:出典●2009年8月31日更新:誠之館所蔵品●2009年9月2日更新:誠之館所蔵品●